

**「南アジアの核軍備競争と中国核戦略
- 危惧される「中国封じ込め」による「制御不能な新冷戦」 - 」
林 亮(本研究所理事、創価大学助教授)**

パキスタンの核実験によって、インドは象徴的な核開発能力の保持から使用可能な核軍備保有へと大きく踏み出した。インドの核軍備増強は連鎖的に戦略的包囲を懸念する中国を刺激し、大規模な核軍備増強に向かわせるきっかけになる可能性が高い。南アジア核軍拡競争は中印対立の影響を大きく受けており、中印軍備競争の側面からも分析する必要がある。

「ならず者国家」からの核の脅威を口実にアメリカは NMD(米本土ミサイル防衛)システムの構築を始めたが、小規模な戦略核攻撃能力しか保有していない中国がインドの核軍備増強と NMD 計画推進を中国包囲計画の一環と捉えても無理はない。中国が「包囲体制形成」を深刻に捉え現在の抑制的な核軍備戦略を大幅に変更し核抑止力維持のために中長距離核ミサイル増強に乗り出す可能性は高い。また現在の経済的発展を考えればその潜在的な能力は十分であろう。

アフガニスタン侵攻のためにパキスタンの戦略的価値は高騰し、ブッシュ政権はパキスタンの核兵器開発を結果的に黙認してしまった。パレスチナ紛争とイラク侵攻は中東地域全体の政治的安定を重大な危機に陥れている。イスラムの危機は容易に同じイスラム圏にあるパキスタンを不安定にする。

中近東から南アジアにかけての不安的な国際情勢が中印核軍備競争に連鎖した場合、世界的な核兵器拡散が起こり核戦争を防止する敷居は限りなく低くなるであろう。ならず者国家の戦略核兵器保有を防止する軍事作戦が結果としてアメリカへの核の脅威を高めるのは皮肉である。世界的な核保有と核軍備増強の連鎖反応が発生した場合アメリカといえども核戦争の発生を制御できないだろう。

アメリカは中東地域への威嚇的な軍事抑止戦略を放棄し、早急に核拡散防止条約と包括的核実験禁止条約による国際的な協力と合意に基づいた核軍備増強抑止の姿勢に立ち戻るべきである。さもないと圧倒的なアメリカの核軍事力を持ってしても制御不能な核戦争の頻発する世界がやってくるだろう。同時に中国やインドやロシアまた日本や EU などの地域大国は世界的な核軍備競争の連鎖反応を起こさないために、核軍縮と核拡散防止で強力で明白な共同作業を進めなければならない。